

自然体験活動の報告：『自然と遊ぼう「ありんこクラブ」』3年間の活動を通して

原口, サトミ
ありんこクラブ

<https://doi.org/10.15017/9051>

出版情報：生活体験学習研究. 4, pp.99-106, 2004-01-30. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：



自然体験活動の報告

—『自然と遊ぼう「ありんこクラブ」』3年間の活動を通して—

原 口 サトミ

A Report on Arinko Club Activity, “Let’s Play in the Nature” for Three Years

Haraguchi Satomi

要旨 『自然と遊ぼう「ありんこクラブ」』は活動を始めて4年目を迎えました。保育士、学童保育指導員の経験の中から

- ①多くの子ども達に自然の中で体を存分に使って遊ぶ楽しさを知って欲しい
- ②大人たちに子どもの遊びの大切さを思い出してほしい
- ③遊び文化を絶やしたくない
- ④地域で遊ぶことによりやがては地域の環境保全につながってほしい
- ⑤大人たちに現在の生活や生き方を見つめなおしてほしい

このような願いから夫や仲間達とつくったクラブです。月一回の活動ですが、毎月発行している「ありんこ新聞」を読んで、都合のつく人が参加するというゆるやかな活動です。野外活動が主な為、保険の関係で会員制にしていますが、一般の方への参加を呼びかけて環境教育学習や、上映会などにも取り組んでいます。

本稿はクラブを始めた経緯から現在までの実践報告と、活動の広がりなどをまとめてみました。

キーワード 遊び 自然体験 時間 五感 異年齢交流 老年パワー

1. ありんこクラブ誕生の経緯

「遊びをせんとや生まれけむ 戯れせんとや生まれけむ 遊ぶ子供の声聞けば わが身さへこそ 動がるれ」—梁塵秘書のなかの子供を歌った歌謡である。平安の昔から子ども達は少しの間もじっとしないで元気に遊び回っていたのであろう。

ところが現在、子ども達が外で遊ぶ姿などめったに見かけない。声も聞こえない。放課後、校庭で行われる遊びも貧弱なものとなり、もう遊ぶことを望まない子どもすら現れていると聞く。

社会環境の激変にともない、子どもの遊びの形態は

大きく変化した。子どもを取り巻く環境が人工化し、生活スペースが室内化した。そのため、発達に必要な直接体験としての遊びの機会やゆったりとした一人遊びにふける時間を奪い去ってしまった。また仲間集団の衰退、スポーツ、マスコミにより子どもの遊びに対する嗜好も変化した。

しかし、自由に遊べる時間や空間の中で、人工的物質がない、自然があるという環境の中で、子ども達は実に闊達に遊ぶ。時間を忘れて遊び込む。5年間の学童保育指導員の経験からそのことを十分に知ることができた。そして同時に自然の中での遊びを通しての自

連絡・別刷り請求先 (Corresponding author)

ありんこクラブ・原口サトミ (〒871-0011 中津市下池永773-2)

Club Arinko Satomi Haraguchi (773-2 Shimoikenaga, Nakatsu City, Japan 871-0011)

e-mail : arinko@rapid.ocn.ne.jp

然体験が子供たちに及ぼす影響の大きさに驚いた。そこで子供たちの5年間の変化をまとめてみた。

- ① 自主的に動くようになった。
- ② 創意工夫をするようになった。
- ③ 心身ともに開放的になり仲間を受け入れることができるようになった。
- ④ 体を存分に動かす、使うようになった。
- ⑤ 失敗を繰り返しながら自分の力としていくようになった。
- ⑥ いろんなことに気づく力(洞察力)がついた。
- ⑦ 自治の力が育った。

大人(指導員)は、始めの3年間は「遊びを伝える」努力をした。しかし、3年を過ぎた頃からは「なるべく見守る」努力をした。子ども達に自治が芽生え始めたからである。

この5年間の時間と空間と仲間の保証の中で子ども達は大きく変わっていった。しかしこれらはこの学童という

- ① 一部の子ども達(親の条件や経済的な面)だけに与えられたものである。
- ② 決められた枠だけの広がり過ぎない。

ことに疑問を感じ、地域の中に時間、空間、仲間を意識的に構築することにより、子どもの遊びや自然体験、子どもによる自治が可能になるのではないかと(プレーパークの存在) また可能になってほしいという願いから夫や仲間達と2000年4月『自然と遊ぼう「ありんこクラブ」』を立ち上げた。

2. 活動の目的、ねがい、概要

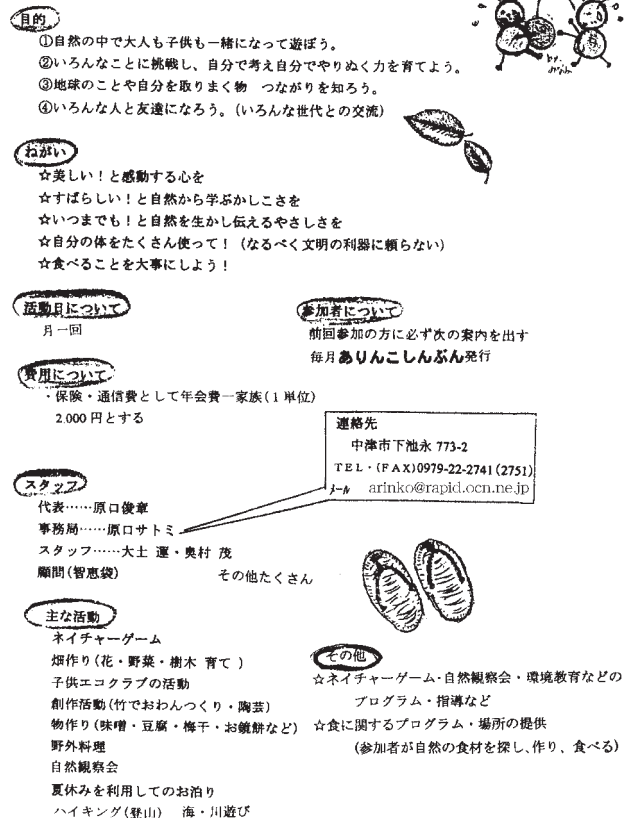
本来遊びは子どもが自発的、自主的に行うべきものである。だから大人が管理しない空間は出来ないだろう。だが、親子のかかわりも大切にしたい。子どもが親と一緒に行動したがるのは誕生してからわずか10年間ぐらいのものである。この時期を親子でじっくり自然の中でかかわってほしい。楽しんでほしい。

相反している願いの中で、親子参加という形をとることにした。高学年は親の了解のもと子どもだけの参加でも良いことにした。

「ありんこクラブ」の案内のチラシである。資料①

資料① ありんこクラブのチラシ

自然と遊ぼうありんこクラブ



目的

- ①自然の中で大人も子供も一緒になって遊ぼう。
- ②いろんなことに挑戦し、自分で考え自分でやりぬく力を育てよう。
- ③地球のことや自分を取りまく物 つながりを知ろう。
- ④いろんな人と友達になろう。(いろんな世代との交流)

ねがい

- ☆楽しい!と感動する心を
- ☆すばらしい!と自然から学ぶかしこさを
- ☆いつまでも!と自然を生かし伝えるやさしさを
- ☆自分の体をたくさん使って! (なるべく文明の利器に頼らない)
- ☆食べることを大事にしよう!

活動日について
月一回

参加者について
前回参加の方に必ず次の案内を出す
毎月ありんこしんぶん発行

費用について
・保険・通信費として年会費一家庭(1単位)
2,000円とする

連絡先
中津市下池永 773-2
TEL・(FAX)0979-22-2741 (2751)
E-mail arinko@rapid.ocn.ne.jp

スタッフ
代表……原口俊章
事務局……原口サトミ
スタッフ……大土 運・奥村 茂
顧問(智恵袋) その他たくさん

主な活動
ネイチャーゲーム
畑作り(花・野菜・樹木 育て)
子供エコクラブの活動
創作活動(竹でおわんづくり・陶芸)
物作り(味噌・豆腐・梅干・お饅頭など)
野外料理
自然観察会
夏休みを利用してのお泊り
ハイキング(登山) 海・川遊び

その他
☆ネイチャーゲーム・自然観察会・環境教育などのプログラム・指導など
☆食に関するプログラム・場所の提供
(参加者が自然の食材を探し、作り、食べる)

3. 会員・構成

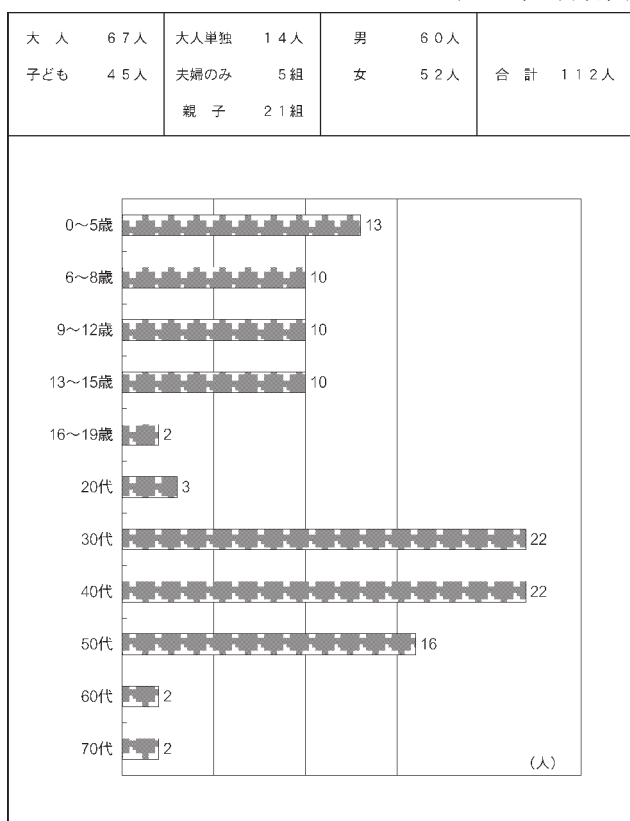
発足当初は学童保育に来ていた子どもとその家族、保育士の家族、夫の同級生というメンバーだったが、しだいにいろんな方たちが加わるようになった。現在のメンバーを年齢ごとに分けてみた。資料②

いろんな年齢層の方が会員である。ありんこ新聞を読んで都合のつく人が集まるという緩やかな活動にしているので、皆が一同に集まるというのではない。そのたびごとに参加者の顔ぶれが違う。が、活動するには10人~40人ぐらいがちょうど良い。子どもたちもいろいろな方たちと触れ合うことが出来る。よそのお父さんがよその子どもを抱っこしたり、世話をやいたりしているという姿もたびたび見られる。また年上の子どもが幼い子ども達の面倒をみたりする姿もたびたびである。

最近ありんこクラブに入会した方たちにその動機を聞いてみた。

- ① 子どもがゲームばかりしているので自然体験や外遊びをさせたいから。
- ② 親があまり自然の遊びを知らないので知りたい

資料② 会員構成図 (2003年8月現在)



と思ったから。

- ③ 一人っ子で周りに遊ぶ子どもがいないから。
- ④ 主人が単身赴任している為、子どもとだけの生活に息がつまりそうだから。
- ⑤ 子育てが終わり、夫婦で共通の楽しみを持ちたいから。
- ⑥ 子育てが終わり自然の中で過ごしたいから。
- ⑦ 子育ても終わり、仕事も退職し、自分自身楽しみながら何かのお役に立ちたいから。

⑤⑥⑦の方たちのパワーには驚かされる。このパワーを地域の中で子ども達の為にもっと生かすことができないうかと思案中である。

日本人の余暇の過ごし方について2000年7月の読売新聞社の「あなたは休暇や余暇をどのような時間に行きたいと考えていますか」という調査に16.5%が「自然に親しみたい」3.3%が「地域活動やボランティア活動をしたい」と答えたそうだ。⑤⑥⑦の方々と同じく、余暇の過ごし方が変わりつつあることに気づく。

また⑧いろいろな親子の接し方を見られるので将来の役に立ちそうという独身兄ちゃんもいる。

さて活動を始めてうれしい発見があった。始めは大

人も子どもも一緒になって活動しているのだが、大人が活動に夢中になったり談笑をしていると、そのうちに子どもは子どもで集まって遊ぶ。異年齢の集まりが自然に出来るのである。初めて参加した子どもも、最初のうちは遠巻きに見ているのだがいつのまにか一緒になって虫を追いかけたり、棒をもって振り回しあったりと、大人にあまり管理されない空間、時間、仲間がおのずと出来たのである。子どもの人数が多ければ多いほど子ども達は活発に遊んでいる。

4. ありんこ新聞

今回のありんこの活動を知らせる為に「ありんこ新聞(B4)」をだいたい月1回発行している。スペースを利用して地域の方のエッセイ(百姓徳さんコーナー、マンスティス語録コーナー)その他イベント情報なども載せている。今後はいろんな年齢の方の意見交換スペースも設けたいと思っている。市のボランティア団体に登録している為、毎回紙を持ち込めば印刷させてもらえるので資金面で助かっている。

ありんこクラブの会員とは別に全国津々浦々にいらっしゃる「ありんこの智恵袋さん」にも新聞を届けている。知恵袋さんは何がしかのご縁があった方々で、代わりにその地域の情報(子ども・環境・行政など)を時々寄せてくれる。いろんな地域で「こんな活動やってみようかな」と思ってくださる方がでてほしいという願いを込めての試みである。

資料③④ありんこ新聞1号・36号

5. 今までの活動

ありんこクラブ単独の活動もあれば、他の主催の行事に参加するという形もあれば、ありんこクラブ主催で行事を組み一般の方々に呼びかけての活動もある。年に一度スタッフで大まかな活動を決め、あとは前回参加した人たちとの話し合い、あるいは情報などを基に臨機応変いきあたりばったり式の、その時に応じて次の活動を定める。そこで2000年4月から2003年9月までの活動をまとめてみた。資料⑤⑥

活動場所は山・海・川・公園・我が家の庭・我が家と地続きの畑(借りている)などさまざまである。

農作業はなるべく取り入れたいと思っている。なぜなら農業を原点にすることによって人が人間らしく生

資料③ ありんこ新聞

ありんこ

しんぶん
2000.5.10. NO1
中津ありんこクラブ

「お星まで待ってくれ〜」の願いもむなく降り出した雨。でも強行軍で植えちゃいましたね。お日様をいっぱい浴びてすくすく育っていますよ。ちょっと楽しいを紹介しませぬ。

☆たいきが種から育てたイチゴの木
☆しょうへいがずっと恋こがれていた赤い実のなるさくくの木
☆しずかがうえた白いピーマン
☆さゆりパパの蒔いたケナフの種
その他、スイカ・トマト・ナス・きゅうりなど楽しみます。

夕方ちょっとの時間を作って見て来てください。また日曜の朝早く起きておにぎりをもって出かけて来るのもいいですよ。隣の竹やぶに住んでいるこじゅけいの鳴き声を聞きながら朝仕事をし、おにぎりをほおばる。最高ですよ！畑に雨水を貯めたプロおけを用意しますので水やりに使ってください。我が家は年中無休ですので気軽に立ち寄り下さい。待っています。

ちよっさい話

先日ママがさっさと作ってくれた一品を紹介
①大根の皮を捨てずに チョンチョンと切ってきゅうりの千切りと混ぜてしょうゆダレ、ごま油ダレハイ、出来上がり！

この詩は、みなみちゃんが先日教えてくれたものです。「のはらうた」という詩集に載ってたそうです。まさにありんこクラブにピッタリ！！それにしてもヒツタリ！！あんまり嬉しかったので皆さんに伝えようとおもってこれを書き始めて、急に思いついたのですありんこしんぶんをつくろうと。「もう、はらちゃん〜」という声が聞こえてきそうですが、自分一人だけ知っているのはもったいない！！まあ、気軽に読んで下さい。そこで、**新聞記者を大募集！！**（おとなでも子どもでもOK）また、記事も待っています。料理短歌、いい話、ぐち、創作童話、四コマ漫画、なんでもOKよ。

ウネイチャーゲーム

米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により1979年に発表された、自然とのふれあいプログラム（野外活動）です。

ネイチャーゲームには、現在100種類以上の活動があり、四季おりおりに子どもと大人が一緒に自然とふれあうことができます。

ネイチャーゲームの目的は「自然への気づき」です。「自然への気づき」とは、五感で自然を感じ、心と体で直接体験することによって、自然と自分が一体であることに気づくことです。

きいちごを探そう！

日にち：H. 1. 2. 5. 21 (日)
雨の時は5. 28(日)
場 所：求菩提山
日 程：9:30 第一駐車場集合
(バス停で天狗の像あり)
みんなで第二駐車場に移動
おはよう、注意事項
登山（いちごを探しながら）
12:00 弁当
1:00 ネイチャーゲーム
1:30 下山（ごみを拾いながら）
3:00 ……解散
持 物：弁当、すいとう、ごみ袋
その他各自必要な物
※欠金を20日までに原口に連絡下さい。
TEL. FAX 22-2741

資料④ ありんこ新聞

ありんこ

しんぶん
2003.8.11. NO. 36
中津ありんこクラブ
原口寮 (TEL. 0979-22-2741) (FAX. 0979-22-2751)

今回『森の学校』の映画の紹介をするに必ず「我々が小さかった頃、こんな映画は学校の講堂でみんなで観たよね。みんなで感動してたわー」「学校でこんな映画観せてくれたのかなあ、みんなで一つのを観て感動を共有する時間や、この頃ないよなあ」という声がしきりに聞こえました。年代にもよりますが、確かに昔こんな時間が設けられていました。暗幕に囲まれた中で1年生から6年生までが一緒に空間と時間を共有して何かを感じ合う……それは子どもにとってもステキな時でした。（勉強をしなくて良いという嬉しさもありました）

我々の子ども時代に比べるといろいろな物質は増えたけれど、物質ではない物（時間や空間や人間）たくさん無くなったのではないのでしょうか。現在の子ども達はその無くなった物を知りません。知っているのは私達おとななのです。それに気づいて欲しい。それが今回の映画上映の願いなのですが、いざチケットを売るとなるとなかなか大変です。ほんと大変。でも愚痴ってばかりはいられません。一人でも多くの方に声かけをお願いします。そしてぜひ、観に来てください。

ありんこクラブ これから活動予定

第39回ありんこクラブの活動 9月7日(日)
「森の学校、をみんなで見よう」
当日の駐車場、受け付けなどのお手伝いもよろしくをお願いします。

おまじろく(新会員さん)
● 小林美智子ちゃん(三光村)
● パパ、ママ
● 高野キクエさん
● 恒塚夫妻

「学校に泊〜まろう！」

日時：8月22日(金)18時〜24日(日)12時（途中参加もOKよ）
場所：日田市小川町日田山小学校
内容：音機かしい木造校舎です。そこに寝泊りして自分達のしてみたいことに挑戦。得意なことは「あなたが先生になって」
携行品：寝袋などの寝具・洗面用品・着替え・保険書の写し・常備薬・水着
その他各自必要な物
参加費：中学生以上3,500円 子ども2,500円
○ 参加希望者はすぐに原口へ連絡下さい。（TEL.22-2741 FAX.22-2751）

百姓様さんコーナー

№.20 健康になるために
私が大好きだった力士に「千代の富士」がいます。すもうの語に心・技・体・という言葉がでますね。私はこれに「美」を付けて「心の美しさ・技の美しさ・体の美しさ」と感じて評価しています。
「心の美しさ」とは、一心に強くなることに向け「稽古」を頑張る姿、「技の美しさ」は切れ味のある技、「体の美しさは土俵に上がった時の姿と聞いています。
千代の富士を例にすると十数回の肩脱臼にもめげず、多い日には500回の崩立で伏せをしたそうです。また負けは相手や苦手の相手の節屋へ毎日出稽古に行き、勝てるようになるまで研究したそうです。引き締まった体は無駄がなく美しい姿でした。そのような美しい人生を送ることが出来たらと思い、もうそろそろ「無駄口はたたかず、美しい姿で自己満足でも生きたい」と思うこの頃です。歳をとってグダグダ言わないように、願い大人にならないように心がけたいものです。

ご案内コーナー

ポスター募集
「ポスターで守ろう青い空」
締め切り：9月16日
主催：環境省
かまぼこ板の絵 募集
かまぼこ板をキャンパスに
締め切り：9月16日
主催：中津の芳いろいろ
ここに百姓農参加者 募集
年間2回農業体験(三光村)
今年はいちごに挑戦
主催：農業振興普及センター
◎ くわしこことは原口へ(22-2741)

資料⑤⑥ ありんこクラブの活動内容

ありんこクラブの活動内容

◎単独 ○参加 ●一般に呼びかけて

年月日	呼びかけ	活動内容	形態
2000.4.30	好きな野菜・花・木を植えよう	農作業	◎
5.21	きいちごを探そう	登山 ネイチャーゲーム ごみ拾い	◎
6.10	ほ～ほ～ほたるこい	ほたるかごづくり 蜜鑑賞	◎
7.30	海は広いな大きいな	海遊び ネイチャーゲーム 海の清掃	○
8.25 ～27	学校にと～まる	昆虫採集・川遊び 竹の食器づくり 草木染め	○
9.15	じゃがいもを植えよう	農作業・豆腐づくり	◎
10.15	焼き芋アッチィティ	野焼き・畑のネイチャーゲーム 焼き芋・焼き卵	◎
11.12	いざめざせ 坊がつる	登山	◎
12.8	みんなであ～そぼ(公園)	ネイチャーゲーム 野鳥の観察・伝承あそび ネイチャークラブ	●
2001.1.5	かべ新聞づくり	子供エコクラブの新聞づくり	◎
2.4	麦ふみしよう	農作業・芋煮会	◎
3.11	資金をかせぐぞ	フリーマーケットに参加	○
3.24 ～25	子どもエコ全国大会参加 (滋賀県)	国主催事業に招待参加	○

年月日	呼びかけ	活動内容	形態
2002.4.21	野菜の苗を植えよう	農作業・だんごじるづくり	◎
5.19	目に青葉…山歩きを楽しもう	ハイキング	◎
6.2	民家復旧作業の手伝い	草取り作業・あくもちづくり ほたるかごづくり	◎
7.7	カプトガニとお友達になろう	カプトガニの観察 海の清掃	○
8.23 ～25	学校にと～まる	川遊び 草木染め 竹の食器づくり	○
9.20	仲秋の名月を見上げて	音楽鑑賞(横笛) 夜のネイチャーゲーム	◎
10.27	ごめんください、おじゃまします	施設訪問とバザー手伝い	○
11.17	千本かつらに会いに行こう	県指定天然記念物の木の観察会	◎
12.8	みんなであ～そぼ(公園)	伝承あそび(釘さし・コマまわし・肌揚げ) ネイチャーゲーム	●
2003.1.6	壁新聞づくり	子どもエコ新聞づくり	◎
2.23	中津の町を歩こうよ	町の探検 自然観察会	◎
3.21	いろんな春、見つけ	山の散策 川遊び	◎

年月日	呼びかけ	活動内容	形態
2001.4.29	好きな花・野菜・木を植えよう	農作業・豚汁づくり	◎
5.12	山は海の恋人	植林(県主催事業に参加)	○
6.9	ほたるかごをつくろう	ほたるかごづくり・焼き魚 ネイチャーゲーム	◎
7.1	レイチェル・カーソン 『センス・オブ・ワンダー』を観よう	自主上映・映画鑑賞	●
8.24 ～26	学校にと～まる	草木染め 銅板工芸 川遊び・そば打ち	○
9.16	遠き島より流れきた物は?	海遊び カプトガニについて学ぶ 海岸清掃	○
10.7	ちいさい秋みつけた	湿原地の植物観察	◎
11.18	よく遊び、よく学び そして考えよう 環境を	大人の環境学習会	●
12.13	年賀状を書こう	絵がみ書き	◎
2002.1.7	壁新聞を書こう	子どもエコクラブの新聞づくり	◎
2.24	すべって転んで大分けん	スケート	◎
3.17	自然案内人になるぞ	イベント行事の手伝い 作品づくり	○

年月日	呼びかけ	活動内容	形態
2003.4.5	八面山であ～そぼ	音楽鑑賞 竹ばしづくり ネイチャーゲーム	○
5.10	ベッコウトンボちゃどんなトンボ	自然観察会	○
6.8	落花生を撒こう	農作業・焼いて食べよう ほたるかごづくり	◎
7.13	海はどこまでつづくやら	ネイチャーゲーム 海の清掃	○
8.22	学校にと～まる延期 水カンリンバづくり	空き缶を利用して水カンリンバ づくり	◎
9.7(予定)	映画『森の学校』を観よう	自主上映・映画鑑賞	●

きていた時代の知恵を再生、復活できるのではないかと考えているからである。そしてそのことが環境保全につながると思うからである。また、農作業にはいろいろな動作が含まれている。子ども達が10歳ぐらいまでに習得すべき手さばき、身のこなしが多く含まれている。

それぞれの家の近くの空き地を借りて親子で農作業に取り組む、そんな広がりができたらいいと考えている。

火を使つての料理も我が家での活動の時には極力取り入れている。日常生活の中では全くと言っていいほど子ども達は火とは無縁の暮らしになったからである。

ネイチャーゲームも活動に取り入れている。慌しい生活の中で空の色、空気の匂い、木肌の感触、虫の声など五感を生き生きと働かせ、自然をより身近に感じるプログラムである。これらの体験は自らの生き方までも見つめる機会となっているようだ。大人が自然を

意識し、地域の自然やすばらしさに気づく。そしてそこから地域の風土や地域独特の文化を知り、さらに自分の生き方や地域を考え、行動を起こす。そんな可能性を秘めた活動につながるのではないだろうかと期待している。以下、ネイチャーゲームを含んだ自然体験活動後に寄せられた感想である。

(H13.11.27中津市PTA女性部研修会にて)

- 目を閉じて3分間静かに聞こえてくる音を数えた時、心がとても安らいだ。
- 自分の身の回りにはまだまだたくさん自然があり、自然の物で一日中遊べるんだと痛感した。
- 枯葉を集めてこすり合わせると枯れ葉の匂いがした。子どもの頃の懐かしい気持ちを思い出した。
- 仕事や家事などに追われ、今日のようにゆっくりした時間がないことに気づいた。週一回でもいいからのんびりする時間をつくろうと思った。
- もっと我が子にも自然とふれあいをもたせてやらなきゃと感じた。
- 何気なく見過ごしている事が生活の中に多いだろうなと気づいた。自然の音、匂いなどにもう少し注意していれば、もっとたくさんの事を感じることが出来るでしょう。
- 体を動かす、体験することの素晴らしさを知った。何も出来ないと思っていた自分が何か出来そうだと勇気づけられた。
- 身近な自然を知ろう。ゆっくりと過ごす時間をつくろうと思った。木の実の味をしっかりと覚えておこう。
- 自分の幼少時代に記憶がもどりととても懐かしかった。
- 「車社会にどっぷりつかっているなあ」と感じた。自分にゆとりを持ち、すべてにプラス発想できるように努力したいと思った。
- 車社会の中でこれからはなるべく外を歩き、体で風や太陽や匂いを感じ取りたい。
- 五感を働かせることの大切さを発見した。
- 限られた時間の中で本当に自然に触れることができた。自分も自然の中の一員なのですね。

6. 自然体験についてのアンケート

平成10年に当時の文部省が全国の公立小学校2、4、

6年生、中学2年生10,000人を対象に実施した「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」がある。資料⑦

どの項目も3年間のありんこの活動の中でほぼ取り組んでいる。

さて9月のありんこの活動は映画『森の学校』を自主上映する予定だ。この映画は河合雅雄氏の「少年動物誌」が原作である。作者が少年時代(昭和10年代)自然の中で生き生きと遊んだ様子が描かれている。そこで文中から当時の子ども達が体験した自然体験を抜き出してみた。これを今回映画を観に来てくださった方々に、体験したことがあるかどうかアンケート調査を試みる予定にしている。資料⑧

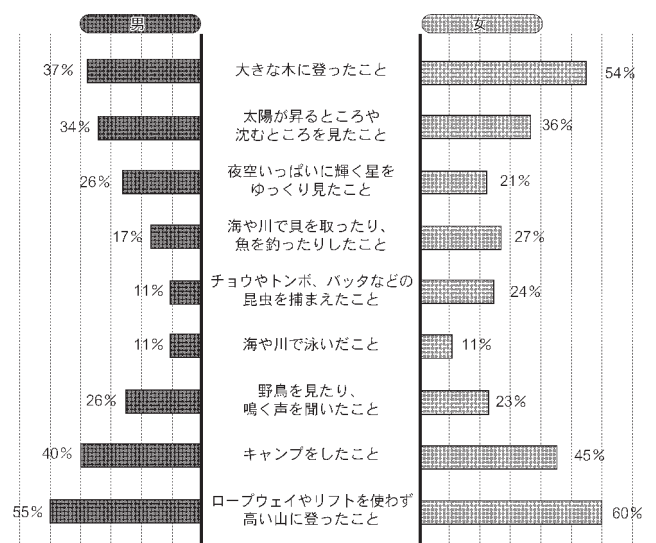
昭和10年代と平成10年の体験の項目を比較してみると、気づいたことは、昭和10年代の子ども達は、

- ① 子ども達だけの自然体験がとても多い。
- ② 昆虫とのかかわりが多い。
- ③ 植物とのかかわりが多い。
- ④ 複雑な体の動きの体験が多い。
- ⑤ 危険な体験が多い。

資料⑦ 文部省「子どもの体験活動に関するアンケート調査」の結果

【自然体験をしたことのない小・中学生の割合】

次のような体験が「ほとんどない」



資料：全国の公立小学校2、4、6年、中学校2年生10,000人を対象に調査「子どもの体験活動に関するアンケート調査」平成10年度文部省(当時)

資料⑧ 自然体験のアンケート用紙

アンケートにお答え下さい。

ありんこクラブ

①あなたの年齢は()歳

③下の描写は「少年動物誌」の文中で作者の河合雅雄氏が子ども時代に体験した自然とのかかわりです。

②あなたは(男・女)

あなたが少年・少女時代に(または現在の子ども達)

何度も体験したことがあることに○
少しあることに○
ぜんぜんないことに×

をつけて下さい。

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1. ()夕暮れ時、鳥が空を飛ぶのを見たことがある。 | 17. ()へびを手でつかんだことがある。 |
| 2. ()宵から夜の移り変わりの風景を見たことがある。 | 18. ()へびの皮をはがしたことがある。 |
| 3. ()暗い夜道を子ども達だけで歩いたことがある。 | 19. ()川で泳いだことがある。 |
| 4. ()夕焼けを見たことがある。 | 20. ()魚をつかみ取りしたことがある。 |
| 5. ()草むらに寝転んで空を見たことがある。 | 21. ()川の底にもぐったことがある。 |
| 6. ()自分で世話をして小動物を飼ったことがある。 | 22. ()ヒルに吸い付かれたことがある。 |
| 7. ()動物の餌を自分で用意(草刈りなど)したことがある。 | 23. ()アブにさされたことがある。 |
| 8. ()木に登ったことがある。 | 24. ()魚をヤスでついたことがある。 |
| 9. ()竹に登ったことがある。 | 25. ()魚を網ですくった事がある。 |
| 10. ()トンボを棒で叩き落したことがある。 | 26. ()魚をつったことがある。 |
| 11. ()かえるを蹴飛ばしたり、とったことがある。 | 27. ()田んぼの中を走ったことがある。 |
| 12. ()クワガタを自分でつかまえたことがある。 | 28. ()野鳥を追っかけたことがある。 |
| 13. ()チョウをつかまえたことがある。 | 29. ()空気銃で野鳥を撃ったことがある。 |
| 14. ()あり地獄にありを入れたことがある。 | 30. ()鳥もちで野鳥をとったことがある。 |
| 15. ()かまきりをつかんだことがある。 | 31. ()カラタチの実をとったことがある。 |
| 16. ()しじみをとったことがある。 | 32. ()菱の実をとって食べたことがある。 |

④今の子ども達の遊びについて感じることをお書き下さい。

御協力ありがとうございました。

⑥ 残酷な体験が多い。

ようになった。

単なる過去の探求にとどまらず、大人に昔の子ども社会や子どもの力を思い出してもらい、今我々大人に出来ることは何なのかを考える機会にしてもらいたい。また現在の子ども達の視点から昔の子ども達と自分達の違いは何なのかを自ら意識する機会としてほしい。

7. ありんこ活動のひろがり

ありんこクラブを始めたことによりいろいろな広がりができ始めた。

- ① 保育士の研修会の講師という形で子どもの自然体験の大切さを保育士たちに伝える機会ができた。
- ② PTA の研修会や子育て広場で親たちに自分達の子ども時代を思い出してもらうことにより、自然体験、遊びの必要性を感じてもらえる機会ができた。
- ③ 小学校の総合学習や親子レクレーションに講師という形で、小学生に自然の気づきを伝えられる

8. 活動での問題点とこれから

3年間の活動を通じての問題点を考えてみた。

- ① 高学年になり社会体育に参加する機会が多くなり、ありんこクラブに参加する時間が少なくなった。
- ② 子ども達が自分の責任で遊ぶということを大人社会で認識する必要がある。
- ③ 帰宅部と言われる中学生にもっと参加を呼びかけたい。
- ④ 一般に呼びかけての活動は、集客が大変である。広報の方法を考えたい。

これからの方向として、現在この地域では小さな公園が点在している。しかし活用されていない。なぜなら子どもにとって面白くもおかしくもない、また自由に遊べる場ではないからである。もっと子どもの視点で子ども達自身が創っていく空間にしていきたい。そ

こで

① 「冒険遊び場」、プレーリーダー（保育士や学校の先生を希望する若者の仕事の場として）の設置を地域に呼びかけたい。

② 「遊び文化」の重要性・必要性を感じる学習会を一般の方々に呼びかけて行っていきたい。

また社会体育に参加している子ども達はとても忙しく遠征などでぎっしりスケジュールが詰まっている。勝敗にのみこだわるのではなく、「人を育てる」という視点に立ちもっと柔軟な活動にしてほしい。

③ 社会体育の活動の中に自然体験を取り入れるなどの社会体育指導員の意識の向上をはかりたい。

また市民グループとして大変困難を極めている集客、広報などの面で

④ 行政の協力を得たい。

⑤ 身近な地域で気軽に自然体験ができるよう地域にリーダーを育てたい。

なにはともあれ楽しみながら「あり」のように、コツコツと活動を続けていきたいと願っている。

参考文献

- 1) 河合雅雄 1976年 「少年動物誌」 福音館
- 2) 河合雅雄 1990年 「子どもと自然」 岩波新書
- 3) 中垣洋一 1989年 「子どもと環境」 圭文社
- 4) 鶴見和子 1998年 「鶴見和子曼荼羅IV 土の巻」 藤原書房
- 5) 斎藤孝・山下柚実 2002年 「「五感力」を育てる」 中公新書ラクレ
- 6) 社団法人 全国児童館連合会 1998年 「自然はあそびがいっぱい」
- 7) 岡島成行 2001年 「自然学校をつくろう」山と溪谷社
- 8) レイチェル・カーソン 1987年 「沈黙の春」 新潮社
- 9) レイチェル・カーソン 1996年 「センス・オブ・ワンダー」 新潮社
- 10) ミヒャエル・エンデ 1976年 「モモ」 岩波書店
- 11) 拙稿「畑仕事を子どもの体と食から考える」日本児童学会 児童研究79巻92-100頁所収